

# 平成30年度病虫害発生予察注意報第5号

平成30年9月14日  
愛 知 県

作物名：果樹（ナシ、カキ、カンキツ）  
病虫害名：果樹カメムシ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 豊橋市に設置した予察灯において、チャバネアオカメムシの誘殺数が8月第5半旬、第6半旬にそれぞれ150頭と292頭誘殺され、急増した（図1）。新城市の予察灯でも、やや多く誘殺されている（図1）ツヤアオカメムシも豊橋市の予察灯において、継続的に多く誘殺されている（図2）。
- (2) 本年は果樹カメムシ類の餌となるヒノキ球果の着果量がやや多いため、新世代成虫量も多くなっていると予測される。
- (3) 7月中下旬に行ったヒノキ球果の口針鞘数調査の結果、県内各地点において8月末までにはヒノキ林からの離脱が始まると予測された。すでに多くの地域で果樹園への飛来が始まっていると推定される。
- (4) 名古屋地方気象台9月13日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、果樹カメムシ類の活動も活発になり、今後、果樹園への飛来増加に伴う被害の発生が予想される。

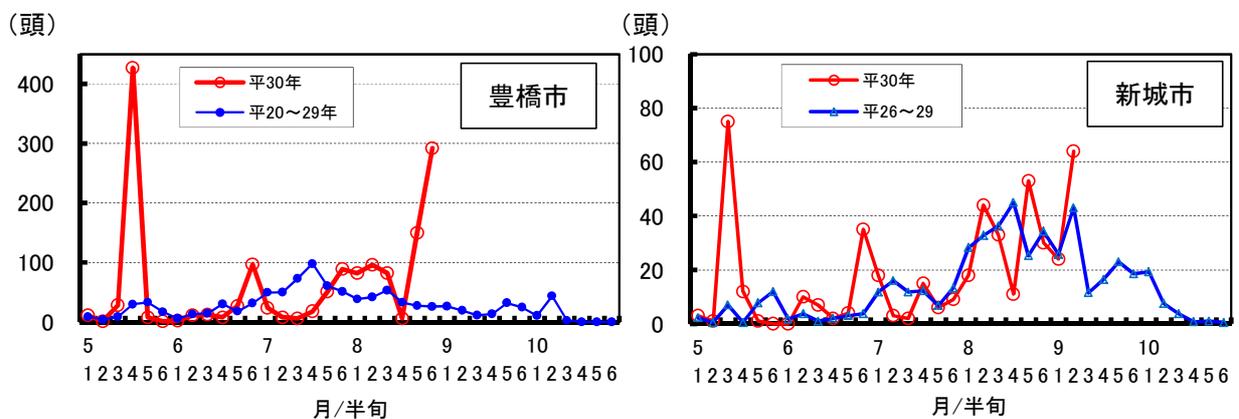


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

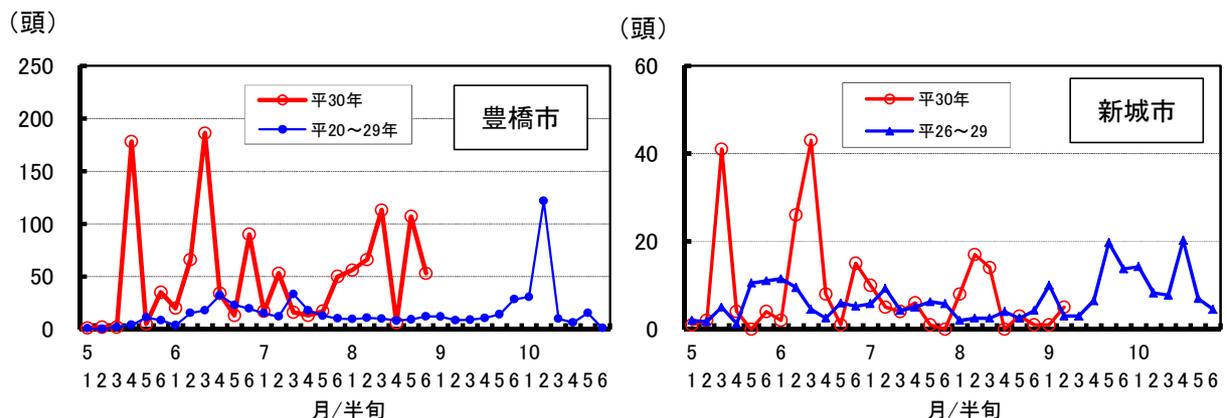


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況

#### 4 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は気温が高く風の弱い夜に果樹園へ飛来することが多いので、ほ場での飛来状況をよく確認する。局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きい。過去に果樹カメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (2) 発生を確認したら、次表を参考に薬剤を散布する。収穫中のほ場における薬剤の使用にあたっては、収穫前日数に注意する。

表 なし及びかき、かんきつのカメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用回数	IRAC
なし	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000～6000倍	2回以内	3(A)
かき	アドマイヤー水和剤	収穫7日前まで	1000倍	3回以内	4A
	キラップフロアブル	収穫7日前まで	2000倍	2回以内	2(B)
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫3日前まで	3000～6000倍	2回以内	3(A)
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A
かんきつ	MR. ジョーカー水和剤	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	3(A)
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫14日前まで	2000倍	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	3000～6000倍	3回以内	3(A)
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	3回以内	4A

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[http://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2017/mechanism\\_irac02.pdf](http://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2017/mechanism_irac02.pdf) を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

#### 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話：0561-62-0085（内線471）